

科目区分：学校教育教員養成課程

授業科目名：初等音楽

対象年次：2年次

## 実技演習と授業時間外学習促進への取り組み

音楽教育講座・福富 彩子

### 1. 授業の目的と到達目標

本授業は、小学校学習指導要領（音楽）の「A 表現（歌唱）」を中心とした学校現場における歌唱の授業に対応できるピアノ伴奏及び弾き歌いの表現・技能の修得を目的としており、初等の歌唱共通教材を主に取り上げて演習形式で授業を行っている。到達目標は、以下の3点である。

- 1) 小学校教科書掲載程度の楽曲のピアノ伴奏ができる。
- 2) 小学校教科書掲載程度の楽曲が弾き歌いできる。
- 3) 音楽を愛好する心を演奏を通じて表現できる。

### 2. 授業の概要について

「初等音楽」は、学校教育教員養成課程2回生を対象に、小学校・幼稚園教諭教職員免許状「教科に関する科目」に必要な選択必修の科目である。

クラス分けで開講され、今年度、福富クラスの受講者数は9名であった。うち、6名が音楽経験者、3名が未経験者であった。本授業は、弾き歌い及びピアノの簡易伴奏・和音付けの知識・技能の習得に加え、表現の拡充を図るため、授業外学習（予習・復習及び授業に関連する学習）が重要となる。また、受講者各自の課題は、熟達度に応じてすすめていった。なお、最終試験までの課題は、弾き歌い（ピアノ伴奏を含む）7曲を最低習得曲数に設定し、最終回は1曲の弾き歌いと1曲のピアノ伴奏による実技試験と振り返りを行った。

以下、本授業の授業スケジュールである。

第1回 ガイダンス

第2回 ピアノの基礎的奏法について

第3回 基礎的課題の演習（うみ）

第4回 基礎的課題の演習（かたつむり、日のまる）

第5回 基礎的課題の演習（ひらいたひらいた、かくれんぼ）

第6回 ピアノの応用的奏法と弾き歌いについて

第7回 応用的課題の演習（春がきた）

第8回 応用的課題の演習（虫のこえ）

第9回 応用的課題の演習（夕やけこやけ、うさぎ）

第10回 アーティキュレーション表現法について

課題の演習（茶つき、まきばの朝）

第11回 レガート奏法とペダルの使用について 課題の演習（春の小川、さくら）

第12回 表現の多様性について 課題の演習（ふじ山）

第13回 表現の多様性について 課題の演習（もみじ）

第14回 総まとめと課題の演習

第15回 実技試験と振り返り

※ただし、受講者に応じて課題の変更あり。

### 3. 授業外学習の促進について

#### 1) 授業内容の工夫

授業では、各受講者の熟達度に応じた課題について一人10～15分ずつ（授業時間外の補講等も含め）**個別の実技指導**を行う。残りの時間は受講者同士での歌唱とピアノ伴奏を行う等、**全体での振り返り**を行うことで各役割を認識し、**教育現場で対応するための課題や改善点の確認**が行えるよう心がけている。

#### 2) 自己課題の明確化による動機付け

本授業での課題の実施（実技演習）には音楽の

基礎的な知識・技能とともに予習・復習が欠かせない。そこで、各受講生に次回までの課題をそれぞれ提示し、準備をしてくるよう課している。また、1週間毎の目標設定を設けることで自己課題を意識化させ、個々に応じた段階的な学習方法により動機付けを促した。

#### 4. 授業アンケートについて

本授業終了時、試験受験者8名を対象に10項目（4段階評定8項目、記述式2項目）のアンケートを実施した。結果を以下に記す。

##### 1) 全体のアンケート結果

「本授業に興味を持つことができましたか。」という質問に対し、全員が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した一方、「本授業の課題について」「本授業の難易度について」では、「どちらかといえば適切でなかった」と2名（25%）が回答し、いずれも初心者の回答であった。さらに、「受講後、新しい知識や技能を得ることができたか」「到達目標の達成について」「課題への取り組みについて」の質問には、全員が「どちらかといえばそう思う」、「そう思う」と回答した。

##### 2) 授業外学習に関する質問式アンケート結果

授業外学習に関して、「他の授業と比べて授業以外の学習を良く行ったと思いますか」という質問に「そう思う」が6名（75%）、「どちらかといえばそう思う」が2名（25%）であった。

##### 3) 授業外学習に関する記述式アンケート結果

「授業以外に1回の授業あたり（1週間）平均して、どのくらい予習・復習、あるいは関連の学習をしましたか」の質問に対して、授業外学習の平均時間と他の授業よりも授業以外の学習を良く行った理由を記述してもらった。結果を下記に記す。

○受講生 A：平均 1~2 時間（理由：実技について一人ずつのレッスンを受けるため練習をしなければ進まないから。ピアノを演奏するのは好きで積極的に学びたいと思うから。授業時間内だけでは課題を改善できないため授業外学習は不可欠。）

○受講生 B：平均 1~2 時間（理由：レッスン形式で授業が行われるため。自身の技能を高めるために必要である。）

○受講生 C：平均 2~3 時間（初心者だったため多く練習しなければ上達しない。授業外学習は、実技系では練習すればする程上達するので必要である。）

○受講生 D：平均 2~3 時間（事前事後の練習をしなければ授業を受けられない課題であった。楽しいから。個人に適した課題であるので授業外学習を行うことで、授業内で成果として表れることにやりがいを感じた。）

○受講生 E：平均 1 時間（毎日のように練習しなければ覚えられない。）

○受講生 F：平均 1~2 時間（実技の授業を受講するためには、授業外学習は必要である。）

○受講生 G：平均 1~2 時間（自身が興味のある授業内容であり、受講までに必要な予習内容が多いものの楽しく取り組めるものであった。）

○受講生 H：平均 2~3 時間（これまでピアノに触れたことがなく、初心者であったため、授業受講のために十分な準備が必要であった。）

#### 5. まとめと今後の課題

各受講者の熟達度に応じた課題を実施し、個人レッスンとともに、教育現場での音楽の授業を想定したピアノ伴奏と歌唱等のグループ活動を並行して行った。習得した楽曲数は、一番多い者で20曲、少ない者でも8曲であった。アンケート結果から、ほとんどの受講者が本授業の内容に興味を持ち、受講後に新しい知識や技能を得ることができたと回答したことから、本時の学びを意欲的に捉えていることが伺える。

一方で、授業時の課題や難易度に関しては、「どちらかといえば適切でない」と回答したものが25%いたことから、経験値・熟達度の異なる受講者内での授業の工夫や初歩課題の見直し、より細分化した課題の設定が求められることも浮き彫りとなった。授業外学習についての質問には、実技の特性上、譜読みやピアノの技能・表現の向上には練習が欠かせないことを受講者全員が認識し、授業外学習に取り組んでいることがわかった。